

テーマ：消費者物価（全国12月、東京都区部1月） 発表日：2012年1月27日（金）
 ～先行きも下落基調が継続する可能性大～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（単位：％）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
11	1月	▲ 0.6	▲ 0.8	▲ 1.3	8.4	▲ 1.1	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 1.0	8.4	▲ 0.8
	2月	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 1.3	7.6	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 0.9	6.3	▲ 1.0
	3月	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 1.4	12.5	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.8	▲ 1.0	12.4	▲ 0.9
	4月	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 1.1	12.6	0.0	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 1.0	13.4	0.0
	5月	▲ 0.4	▲ 0.1	▲ 0.8	9.3	▲ 0.1	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.6	9.6	▲ 0.4
	6月	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.8	7.9	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.7	7.7	▲ 0.6
	7月	0.2	0.1	▲ 0.5	9.8	▲ 0.2	0.1	▲ 0.1	▲ 0.4	10.8	▲ 0.3
	8月	0.2	0.2	▲ 0.5	11.7	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.6	13.1	▲ 0.4
	9月	0.0	0.2	▲ 0.4	9.7	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 0.4	9.1	▲ 0.5
	10月	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 1.0	7.7	0.2	▲ 0.5	▲ 0.4	▲ 1.0	7.2	▲ 0.4
	11月	▲ 0.5	▲ 0.2	▲ 1.1	7.5	0.2	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 1.2	7.7	▲ 0.4
	12月	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 1.1	7.3	0.3	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 1.1	9.1	▲ 0.2
12	1月	—	—	—	—	—	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 1.1	4.4	▲ 0.3

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

(注)2010年12月以前の前年比は05年基準の値

○ 緩やかな物価下落傾向が続く

総務省より発表された2011年12月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.1%となり、前月（▲0.2%）から下落幅が若干縮小した（前年比マイナスは3ヶ月連続）。事前の市場予想通りの結果であり、意外感はない。品目別では、販売不振の影響からテレビのマイナス寄与が拡大した一方、過去の燃料価格の上昇を反映した電気代やガス代のプラス寄与が拡大したほか、宿泊料、外国パック旅行、食料品（生鮮除く）などが前月と比べての押し上げ要因になっている。

また、食料・エネルギーを除く総合（米国型コア）は前年比▲1.1%となり、前月から変化がなかった。足元のCPIコアは、エネルギー価格によって前年比の伸びが押し上げられており、より物価の基調を把握しやすいと言われている米国型コアで見ると、下落幅は大きなものになっている。

季節調整済み前月比では、CPIコアが前月比横ばい（11月：同横ばい）、米国型コアが同▲0.1%（11月：同▲0.2%）となった。米国型コアの前月比下落は5ヶ月連続であり、物価下落圧力の根強さを窺わせる結果である。

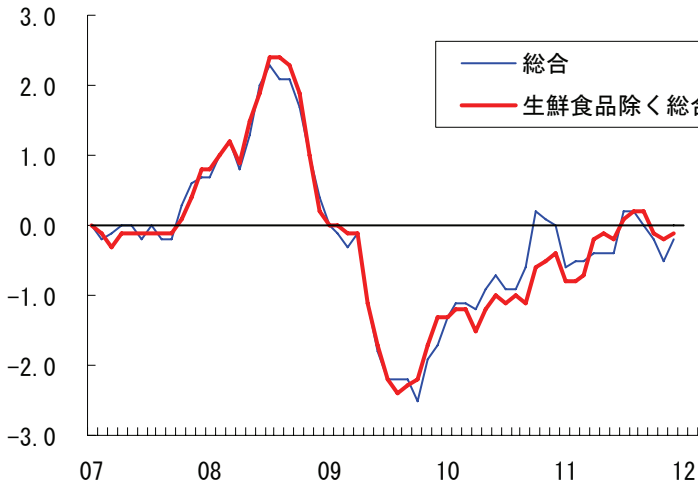
また、2012年1月の東京都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.4%（12月：同▲0.3%）と、下落幅が若干拡大した（市場の事前予想：同▲0.3%）。ガソリン価格のプラス寄与縮小に加え、テレビや外国パック旅行などが押し下げ要因になった。また、米国型コアは前年比▲1.1%と前月から変化がなかった。季調済み前月比では、CPIコアが前月比▲0.2%（12月：同横ばい）、米国型コアが同▲0.1%（12月：同▲0.1%）である。CPIは、全国、東京都区部とも緩やかな物価下落が続いていることを示す結果であり、前月から大きな変化はなかった。

○ 先行きはマイナス幅拡大へ

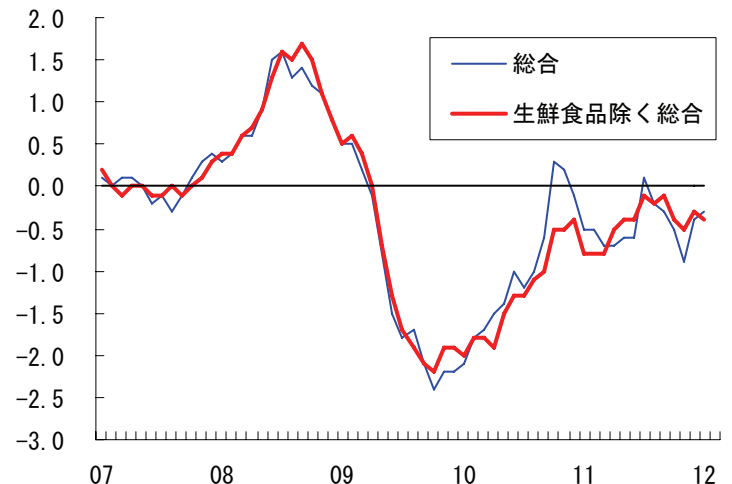
東京都区部の動向から判断すると、2012年1月の全国CPIコアは前年比▲0.2%と、下落幅の小幅拡大が予想される。また、その先についても下落傾向が持続する可能性が高い。景気減速が明確化し、需給ギャップの改善が滞っていることに加え、前年の同時期に石油製品価格が上昇していた裏が出ることなどが背景にある。特に2012年3月以降にマイナス幅が大きく拡大すると見込まれ、2012年の4～5月頃には前年比で▲0.6%程度まで下落幅が拡大すると予想される。物価が基調としてプラスになる時期は、まだ展望できる状況にはない。

日銀展望レポートでは2012年度のCPIコアが前年比+0.1%、政府の経済見通しでもCPI総合が+0.1%と予想されている。電気料金的大幅値上げや原油価格の大幅上昇などを見込んでいるなら話は別だが、そうでなければこの見通しはやや強気のように思われる。現在の経済環境を踏まえれば、2012年度のCPIはマイナスを見込むのが自然だろう。

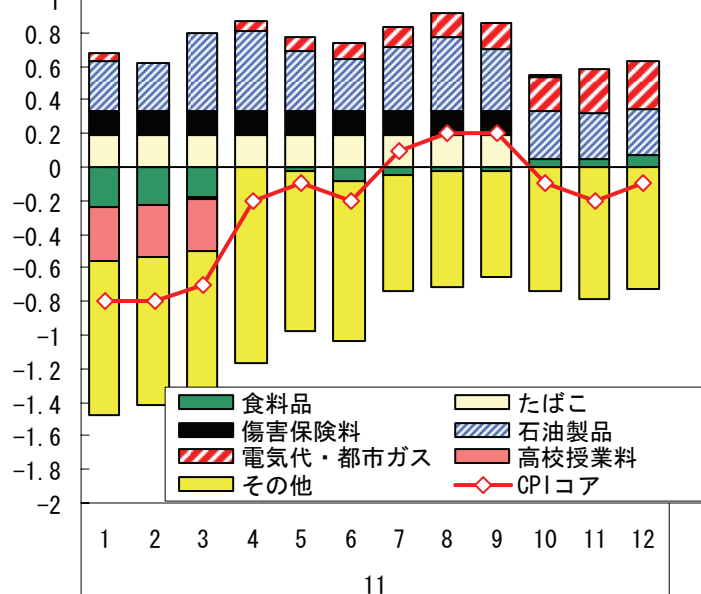
全国消費者物価指数（前年比、%）



東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



全国・消費者物価コア前年比



（出所）総務省「消費者物価指数」

（注）2010年12月以前の前年比は05年基準の値

東京都区部・消費者物価コア前年比

